

特集「インタラクションの理解および基盤・応用技術」の編集にあたって

木村 朝子^{1,a)}

本特集号は、2015年3月5日(木)~7日(土)に、日本科学未来館(一般講演)と東京国際交流館(インタラクティブ発表)で開催されたシンポジウム「インタラクション2015」(大会委員長:市村哲,プログラム委員長:木村朝子)に連動して企画しました。

同シンポジウムは、1997年より毎年開催されており、ユーザインタフェース、CSCW、可視化、入出力デバイス、仮想/拡張現実、ユビキタスコンピューティング、ソフトウェア工学といった計算機科学、さらには認知科学、社会科学、文化人類学、メディア論、芸術といった人文科学の、研究者および実務者が一堂に会し、インタラクションに関わる最新の技術や情報を交換し議論する場を提供してきました。主催は、本学会ヒューマンコンピュータインタラクション研究会、グループウェアとネットワークサービス研究会、ユビキタスコンピューティングシステム研究会、エンタテインメントコンピューティング研究会、デジタルコンテンツクリエーション研究会の5研究会となっています。インタラクション2015では、厳しい査読を経て精選された16件の一般講演発表と225件のインタラクティブ発表が行われ、755名の参加者を集めました。

インタラクションに関する研究は進歩が早く、発展が著しいため、迅速な論文文化の機会を提供することが重要です。そこでインタラクション2015の開催に合わせてインタラクションに関する特集を組み、インタラクション2015における発表論文および関連研究を広く集め、速やかに公表することを目的に特集号を企画しました。本特集号は、第1回目のインタラクションシンポジウムであるインタラクション'97に連動して企画された、Vol.39, No.5(1998年)に端を発し、今回が16回目となります。

本特集号の編集委員には、インタラクション2015のチーフプログラム委員15名とインタラクション研究に造詣の深い研究者7名を迎えました。チーフプログラム委員は、インタラクション2015から新たに導入された仕組みで、同シンポジウムの一般講演発表のメタ査読を担当しています。本特集号では、このチーフプログラム委員と編集委員

の役割を上手くリンクさせ、インタラクション2015でも投稿されていた論文については、同じメタ査読者(編集委員)がきめ細かく対応するという体制を取りました。最終的には、本特集号への投稿数37件に対して、16件の論文(採択率41%)が採択されました。

本特集号が、インタラクションという研究分野に関係する読者の皆様にとって価値のあるものとなることを願っております。また、本特集号を通して、ぜひインタラクションシンポジウムにも興味を持っていただき、一般講演発表・インタラクティブ発表への投稿や、聴講者として参加していただけることを期待しております。

最後に、ご投稿いただいた著者の皆様、編集にご尽力いただいた幹事・編集委員の皆様、丁寧な査読にご協力いただいた査読者の皆様、本特集号の機会を与えていただき編集を支援いただいた論文誌編集委員会と学会の事務局の皆様に深く感謝いたします。

「インタラクションの理解および基盤・応用技術」特集号編集委員会

- 編集長
木村朝子(立命館大学)
- 副編集長
塚田浩二(はこだて未来大学), 吉高淳夫(北陸先端大学)
- 編集委員(五十音順)
秋田純一(金沢大学), 市村 哲(東京工科大学), 伊藤貴之(お茶の水女子大学), 伊藤雄一(大阪大学), 井上智雄(筑波大学), 倉本 到(京都工芸繊維大学), 河野恭之(関西学院大学), 後藤真孝(産業技術総合研究所), 坂本大介(東京大学), 志筑文太郎(筑波大学), 鈴木健嗣(筑波大学), 角 康之(はこだて未来大学), 竹川佳成(はこだて未来大学), 寺田 努(神戸大学), 中西英之(大阪大学), 土方嘉徳(大阪大学), 福地健太郎(明治大学/JST), 福本雅朗(Microsoft Research), 細部博史(法政大学), 三浦元喜(九州工業大学), 水口 充(京産大学), 暦本純一(東京大学/ソニー CSL)

¹ 立命館大学
Ritsumeikan University, Kusatsu, Siga 525-8577, Japan
^{a)} asa@rm.is.ritsumeikan.ac.jp